



No.18

東京モーターショーニュース

2003年10月28日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル
 Publisher: Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
 Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN
 TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com



開幕初の平日を迎えた27日(月)、この日の開門は午前10時。晴時々曇りで来場者の出足は順調だった。平日にゆっくり見学しようというビジネスマンや中高年層が目立っていたが、西休憩ゾーンで催されたライブ・クッキングショーや交通安全を啓発するトライアルデモンストレーションには若者や子供、女性の人垣ができていた。クリーンエネルギー車の同乗試乗会もフル稼働。

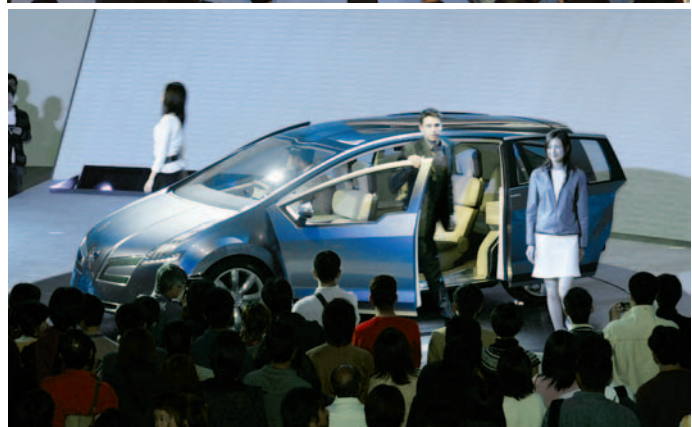
新たな“意気込み”を「和」で表現

今年創立70周年を迎える日産は、日本の伝統「和」をキーワードにこれまで培ってきた「日産DNA」を世界に向けて発信。22日のプレスブリーフィングの場で初公開した華麗なデザインの「JIKOO」(時空/ジクウ)をはじめ、先端技術と伝統工芸の技を融合させたコンセプトカーなどを披露している。



中央ホールにある日産ブース。正面ステージの2つの大型スクリーンとブースを囲むダイナミックな円形シアターに桜吹雪が華麗に舞う。大輪の花火も鮮やかに夜空に打ち上がる。中央ステージの「フェアレディZロードスター」から順にスポットが当たり、その上でオシャレなカップルがダンスのパフォーマンス。この瞬間、江戸の古都と今の大都会を行き来するような不思議な仮想空間に吸い込まれていく。

今回のショーでは参考出品車8台、市販乗用車10台の計18台を展示しているが、なかでも「和」のイメージを盛り込んだ新しいデザインの方向性を提案するコンセプトカーに熱い視線が注がれている。



新しい高級車の方向性を提案する「FUGA」(右上)
 「SERENITY」のデザインテーマは「ジャパニーズ・DNA」(右)

「モダンな和」をテーマにデザイン

正面ステージ左側の「FUGA」(風雅/フウガ)は、「モダンな和」をテーマにデザインしたインテリアを持つコンセプトカー。全長4930mm、全幅1850mm、ホイールベース2950mmの大型サイズで、身長180cmの人が前後に座った場合でも、後席で足を伸ばせるほどのゆったりとした室内空間だ。プラットフォームは「スカイライン」や「フェアレディZ」に使用しているFMパッケージを採用し、世界トップクラスの動力性能と操縦安定性を追求している。

「FUGA」の隣に展示している「SERENITY」(セレニティ)はスポーツセダンとミニバンの融合を提案。6人乗りの多目的サルーンで走り、高級感、豊かな居住感を高次元で実現させたという。デザインのテーマは“ジャパニーズ・DNA”、凛とした和の静けさを持つ日本独特の感覚をインテリアなどに表現している。



江戸時代の熟練工の技をちりばめたデザインの「JIKOO」



左右のガラスルーフが電動で格納できる「REDIGO」



クルマの新たな可能性を追求した「C-NOTE」



2つの出力軸を取り出せる新開発の「スーパーモーター」搭載の「EFFIS」

先端技術と伝統工芸を融合

初公開の「JIKOO」は2シーターの小さなプレステージオープンカー。日産創立70周年にあたり、江戸開府400年事業に参加する目的で製作されたもの。時空を超えることをコンセプトとし、初代ダットサン「ロードスター」を原型としてコンパクトにまとめ、随所に江戸の伝統工芸職人による匠の技をちりばめた。また、江戸の街を“ドライビング”できるよう、江戸時代の地図や街の風景を表示する「江戸ナビ」を装備し、運転席には現代の地図、助手席のモニターには過去を表示する仮想タイムトラベルを実現している。

このほか、丁寧な作り込みのインテリアを持つ“小さいプレミアム”を提案した「C-NOTE」(シーノート)や、新感覚のオープンルーフカーの「REDIGO」(レディゴ)、コンパクトで新発想の燃料電池車「EFFIS」(エフィス)などのコンセプトカーにも新たな“意気込み”が感じられる。カルロス・ゴーン社長が取り組んでいる経営計画「日産180」の公約である「持続的な利益ある成長」を、日産ブースでは積極的にアピールしている。



RENAULT

近未来車の提案などブースに「宝石」が勢ぞろい

ルノー

東京モーターショーにルノーは「宝石」をそろえた。展示ブースはまさしく「宝石箱」。その中で燦然と光を放つのがコンセプトカー「Be Bop」。SUVとルノー・スポールの2タイプを展示、近未来の車を提案している。

SUVタイプは、4WD機構を採用した本格的なオフローダー、スポールはルノーのF1技術を反映し、2リッター・225馬力のガソリンターボエンジンを搭載したスポーティコンパクトMPVである。ともに、室内空間を効率よく使うというコンセプトにもとづいて、シートアレンジなどに工夫を凝らしている。ボディスタイルはサイドウィンドウに象徴されるように、空力特性を追及して水滴をモチーフにした斬新さが目を引く。

市販モデルでは、2003ヨーロッパ・カー・オブ・ザ・イヤーを受賞し来年の日本発売が予定されている「メガーヌ20 プレミアム」をはじめ「メガーヌクーペ カブリオレ」、F1マシン「R23」などが注目を集めている。



近未来の車を提案する「Be Bop」(SUV)



PEUGEOT

「ダイナミズムとエレガンス」表現したコンセプトカーに人気

プジョー

独創的なクーペ・カブリオレ(CC)で日本市場でも高い評価を得ているプジョーは、「206CC」に続いて新たに「307CC」を開発、東京モーターショーで日本初披露している。リアシートに大人2人がゆったり乗車できる4シーター。「307シリーズ」の「イメージリーダー・バージョン」として、来春から市場デビューする。

市販モデルとしてはこのほかに、「206シリーズ」「307シリーズ」から最上級セダンの「607Sport」、さらにWRCの舞台で活躍する「206 WRC」も来場者の注目を集めているが、ひときわ目立つのが参考出品の「407エリクシール」だ。

次世代のプジョー・デザインモチーフを垣間見ることができるスタイリングは、ダイナミズムとエレガンスを絶妙に表現、クーペスタイルを思わせる3ドアステーションワゴンで、パーティーやパーセルシェルフのないワンルーム感覚をコンセプトにしている。



市販モデルが並ぶ中でも際立つ「407エリクシール」



CITROËN

展示車に共通する洒落た雰囲気満ちるブース

シトロエン

未来の2+2クーペ「C・エアドリーム」をコンセプトカーとして前面に打ち出したシトロエンのブースには、来年日本市場に投入される「C3プルリエル」「C2」をはじめ、展示車に共通する洒落た雰囲気が満ちている。

「C・エアドリーム」は2002年のパリ・サロンでデビュー、エアロダイナミクスを追及した低く流麗なボディデザインの大型クーペで、空気抵抗係数(CD値)0.28を達成している。V6・3リッターエンジンを搭載しているが、最大の特徴は、ステアリング、スロットル、ブレーキ、シフトチェンジなどの車両コントロールに関する操作系はすべてステアリングホイールに集約した「ドライブバイワイヤ」を採用の電子制御である。また、参考出品の「C3プルリエル」は、着脱式ルーフアレンジメントによって、1台でさまざまなボディタイプに変幻自在に変化するユニークな構造を採用、楽しいクルマである。



エアロダイナミクスを追及した「C・エアドリーム」

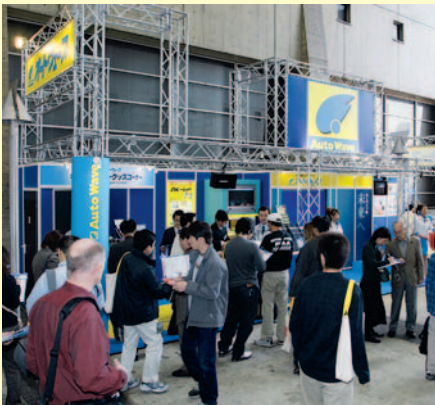
TOPICS

活気あふれるブース 多彩な展示

オートウェーブ

ゲートの入口や中央モールの天井など館内のアチコチで見かける「オートウェーブ」の黄色い看板。どこからでも目に入る。

やすらぎのモールにあるブースにはカー用品からメンテナンス、オイル交換、さらにはクルマを光り輝かせるカービューティーと当社が手がける多彩な事業を展示、活気にあふれている。地元千葉の企業で、スポンサーシップ・プログラムに参加、今回初めて出展したもの。ブースにはアンケートに答える人がつめかけ、担当者は対応におおわらわ。アンケートは企業PRと情報収集が目的で、「ここを情報発信基地としてたくさんの情報を提供していきたい」と担当者は意気盛ん。



TOPICS

楽しいショーと おいしいパエリア

フィエスタ・マリスコス

美しいスペイン女性2人がフラメンコを楽しく踊り、ハンサムな5人の男性外国人ダンサーと2人の日本人ダンサーが軽快にステップを踏む。合間に入る2人のパフォーマーが演ずる大道芸も楽しい。西ホール脇のフェスティバルパーク・特設ステージで開かれているフィエスタ・マリスコス。楽しいショーが繰り広げられている間、ステージ左手のテントで作られているスペインの家庭料理パエリアのおいしそうな香りが流れる。ショーが終わるとそのパエリアが振る舞われる。楽しいショーとおいしい料理、見逃す手はない（平日のみ開催）。



TOPICS

初めての人を モーターショーの“通”に

Motor Info Gate

会場の様々な情報を携帯電話で検索できて便利—と好評なのが「Motor Info Gate」。中央モールほか2カ所に設けてあり、登録用のメールアドレスとIDナンバーなどを入力するという簡単な操作で登録完了。続いてInfo Gateで各種の情報を取り込んで館内へ。

お目当てのブース、そこまでのアクセスはもちろん会場の催し物、レストランなど必要な情報が即手に入る。凸版印刷の協賛により行っている情報通信サービス。初めて来場した人をモーターショーの“通”にしてくれるスグレモノだ。初めての人も、何回も来ているベテランも、ともかく使ってみて。



今日のイベント（予定）

★ シンポジウム

13:00~15:00 **新時代環境宣言** ~ぼくらの未来~
(国際会議場2階・国際会議室)

14:00~16:30 **高齢者のアクティブライフをささえる自動車**
(国際会議場2階・201号室)

★ Bay FM

11:15~11:45 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

★ フィエスタ・マリスコス

13:00~13:30

15:00~15:30 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

17:30~18:00

★ トライアル2輪デモ

13:45~14:45

15:45~16:45 } フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

記者の目

THE NATION NEWSPAPER
自動車部門編集長

キングスリー・ウィジャヤシンハ さん (タイ)



すっきりした印象で雰囲気も良い

東京モーターショーの取材は4,5年ぶり。会場に入って、まず感じたことは通路がうまく整理されていて大変歩きやすいというか、取材しやすいという点だ。展示の飾りつけもすっきりした印象で雰囲気も大変素晴らしい。

もちろん展示されているコンセプトカーの高い技術も素晴らしい。当然のことだが、新しいモデルについてはタイの市場で売れそうなものを自分なりに判断してみた。デザインを含めて一番印象に残ったのはホンダのオデッセイだ。オベルも好感を得たが、タイで売れそうと思ったのはほとんどが日本車だった。

10月27日の入場者数 **84,600**人

入場者数合計 **399,100**人

お客様との密接な関係づくりには、**「情報の最適化」**が欠かせません。

▼ 卓越したマーケティング活動を支えるオンデマンド印刷が丸ごと早わかり。

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

Color DocuTech 60

機材協力：富士ゼロックス株式会社

用紙協力：富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105

THE DOCUMENT COMPANY

FUJI XEROX